

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 1月 16日

【評価実施概要】

事業所番号	0174700864		
法人名	有限会社ひまわり		
事業所名	グループホーム士幌ひまわり館		
所在地	〒080-1200 北海道河東郡士幌町字士幌西2線166番地10 (電話) 01564-5-5122		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年10月31日	評価確定日	平成21年1月16日

【情報提供票より】 (平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年9月16日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	7人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.05人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	17,000~22,300 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		850 円	

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1	4 名	要介護2	2 名			
要介護3	3 名	要介護4	0 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	81.2 歳	最低	59 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	士幌町国民健康保険病院、神山歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、町内唯一のグループホームであり、平屋建て1ユニットで平成15年9月に開設した。付近には、士幌町国民健康保険病院を核とした各福祉施設が建ち並び、士幌町福祉団地や商店街があるなど、環境に恵まれている。利用者の各居室は、南側に面しており、トイレも完備している。利用者は明るくのびのびと暮らしており、利用者同士の会話ははずんでいる。事業所は、職員の研修に力を入れており、職員も事業所の理念を理解し、質の高いケアに取り組んでいる。開設から5年目となり、地域での認知度も高く、地域に根ざした事業所づくりを目指している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	町との連携については、隣接する福祉団地に町の福祉担当出先機関があり、町担当者ケアサービスの取り組みを相談したり、研修を依頼するなど、積極的に交流を図っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員が自己評価表を各自で検討している。各自の検討結果を、全体会議で発表して取りまとめ、改善事項を共有している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、おおむね2ヶ月に1回実施している。メンバーは、老人クラブ役員、町内会役員、民生委員、町職員、利用者代表、家族代表、事業所代表で構成している。会議では、事業所から、利用者の生活状況や、運営状況、自己評価及び外部評価の結果、消防訓練や職員研修の状況などを報告している。また、討議の結果については、議事録にまとめ、職員会議で話し合い、改善に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の家族には、来訪時や月1回の手紙で、利用者の近況や健康状態、金銭出納などについて、事業所だよりの「ひまわり通信」を同封して報告している。利用者や家族からの苦情については、事業所に相談窓口を設けるとともに、国や道、町役場にも外部の相談窓口があることを掲示して知らせている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域の行事である盆踊り大会、花火大会などに、積極的に参加しているとともに、夕涼み会、クリスマス会などの事業所の行事に、地域の参加を呼びかけている。また、社会福祉協議会を通じてボランティアが参加しており、地域との連携に取り組んでいる。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が家庭的な環境の中で、その人らしい豊かな生活を送ることを援助し、地域の中で暮らし続けるためのサービスの提供を目指した、独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、理念を毎朝のミーティングで読み合うなどして確認し、職員が理念を共有するよう努め、さらに職員研修に積極的に取り組み、質の高いサービスを提供するよう心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	盆踊りや花火大会などの、地域の行事に積極的に参加している。また、事業所の行事にも地域住民の参加を呼びかけ、地域との交流を図るよう努力している。	○	今後も引き続き、地域との交流を促進し、職員のみならず利用者と地域住民との交流を図るよう期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が自己評価表を各自で検討し、各自の検討結果を全体会議で討議している。外部評価の結果についても全体会議で討議し、改善に向け取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はおおむね2ヶ月に1回実施している。事業所の運営や利用者の生活状況、自己評価や外部評価の結果などを報告して討議し、討議結果を事業所の運営に反映させている。	○	今後は、防災訓練や、徘徊による利用者の行方不明時の対応なども議題として取りあげ、オブザーバーとして消防署員や警察官に参加を依頼し、指導を受けるなどの取り組みを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所に隣接して町の福祉担当出先機関があり、町担当者にケアサービスの取り組みを相談したり、研修を依頼するなど、積極的に交流を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の家族には、来訪時や月1回の手紙で、利用者の近況、健康状態や金銭出納について、月1回発行の「ひまわり通信」を同封して知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等からの苦情などについては、事前に重要事項説明書で外部の受付窓口を説明するとともに、事業所にも相談窓口を設けて対応している。相談や苦情等がある場合は、全体会議で討議して対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はごく少ないが、異動のある場合は事前に補充する職員を採用して、退職予定の職員と重複して勤務しながら、引き継ぎをするなど、利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員の資質の向上に向け、一般講習を2ヶ月に1回ないし2回実施している。職員の向上心と介護知識を深めるために、介護福祉士への受験を奨励しており、本年は3名が合格している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所は、十勝グループホーム協議会に加盟し、管理者は理事を務めている。協議会を通じ、他事業所の見学、実務研修、交流会などを行い、サービスの質を向上させている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用予定者に、事前に事業所の見学に来て体験してもらい、事業所の雰囲気に馴染んでから利用を開始するなど配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と共同生活をする仲間としての自覚を持ち、農家出身の利用者から畑作の技術を教わったり、きのこ採りに出かけるなど、支えあいながら日々の生活を楽しんでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者ごとに担当の職員を決め、日々の暮らしのなかで信頼関係を作り、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を聴きながら、利用者の視点に沿った一人ひとりの介護計画を作成している。また、必要に応じて主治医の指導を得て、介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回、介護計画見直し会議を行い、利用者の実情に応じた介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や外泊の送迎、家族の事情に応じた遠方通院などの支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の馴染みのかかりつけ医の受診を、積極的に支援している。また、遠方の場合、家族の協力を得ながら受診支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に関して、事前に利用者や家族と話し合い、かかりつけ医と相談するなどして、全員で方針を共有するよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	毎朝のミーティングや職員会議において、プライバシーの保護について確認しあうなど、秘密保持の徹底をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースにあわせ、できる限り希望に沿うように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の会話の中で、利用者から何気なく何が食べたいかを聴き、できるだけ要望を採り入れて献立を作成している。利用者と職員が協力して調理、配膳、食事、後片付けをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週4回入浴の準備をしておき、利用者の希望する時間帯に入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	雑巾づくり等の縫い物、野菜づくり、調理など、利用者一人ひとりが、できる時に、できる事を、できる様に支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は、利用者ができるだけ外出するように心がけており、利用者の趣味を活かしたドライブ、買い物、温泉、パークゴルフ、山菜採りなどを取り入れながら支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、鍵をかけない暮らしの大切さを認識しており、利用者一人ひとりに担当を決めて、それとなく見守り、利用者が安全に暮らせるように支援している。夜間は防犯上施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練は、春・秋の年2回行っており、日中に夜間の火災を想定した消防訓練を実施している。	○	今後は、事前に消防署や地域住民に協力を求めて、夜間にも消防訓練を行い、避難誘導方法や避難場所の確認など、職員で対応を共有するよう期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの水分摂取量や、食事量を把握し、バランスの取れた献立となるように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分には季節の花を飾り、壁には季節の花のタペストリーや利用者が参加した行事の写真などを展示し、利用者が生活感や季節感を感じられるように工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室には、利用者が使い慣れた家具や、好みの物を置いており、利用者が居心地よく過ごせるよう支援している。		

※ は、重点項目。